

- 1 穴五つあり昼顔の蕊の奥
- 2 耳打ちの蛇左右から「マチュピチュ」と
- 3 踏む音の石から草へ蚩狩
- 4 端欠けて光る昆虫用ゼリ―
- 5 Tシャツの前にも後ろにも埴輪
- 6 青島麦酒喧嘩のままに皿を出す
- 7 蚊柱の揉みある研究室の前
- 8 母が子を組み伏せし像蜚蝶
- 9 教室の隅に三人裸なり
- 10 丘の上の見知らぬ踊り夏の海
- 11 水面にうつり紫陽花なほ歪む
- 12 青鬼灯電車に父と揺れゐたる
- 13 マンションの人が手を振る合歓の花
- 14 睡蓮の前ランナーの倒れ込む
- 15 帰省子の伏すや畳の稲穂めく
- 16 蒲の穂の押し返したる朝日かな
- 17 掌が桃を離れて柔らかき
- 18 マスカット体温計の先にある
- 19 泡立草車来たよと言ふ係
- 20 この鳶を越ゆれば変はる学区かな
- 21 子規の忌の鯉鮓が繋ぐ皿と喉
- 22 秋の夜の影絵の鳥が鳥を食ふ
- 23 母象の後ろ足秋なかばなる
- 24 水筒の氷の鳴りて椿の実
- 25 二回目の迷子放送秋の湖

- 26 流れ星鞆を胸に抱いて寝る
- 27 似て非なるまんぢう二つ夜学子に
- 28 お手玉の木の実同士のぶつからず
- 29 檸檬置かれし卓布の裾の垂れ具合
- 30 過ぎてゆく貨車の J の字秋没日
- 31 伏臥よりはじまる匍匐月の冷
- 32 オカリナを十指に塞ぐ寒夜かな
- 33 四隅より垂るる蜂蜜冬はじめ
- 34 引っかけてしばらく動きたるコート
- 35 ワッフルに四つの窓やビル寒し
- 36 残業の窓の枯枝炎めく
- 37 吹雪く夜のカヌレに一つづつ火口
- 38 大綿の過ぐ屈伸の膝小僧
- 39 沢庵で包む飯粒研修日
- 40 コンビニの聖樹が昼間から光る
- 41 クリスマスリースに跳び込めば夜空
- 42 太き目の小芥子も居りぬ年の市
- 43 いつまでも来ず寒橋の三打目は
- 44 餅臼に薬缶突つ込み宴果つる
- 45 歳晩や海驢の鼻の下の水
- 46 募金の母貯金の父や蜜柑むく
- 47 粥焦がす賞与得ぬまま退職し
- 48 湖凍る全紙全面崩御と書き
- 49 寒雀仁王立ちして枝細し
- 50 凍星や紙のバックに卵十

- 51 マフラーは黒夜行バス発着所
- 52 冬麗やアイロンに沿ふシャツの首
- 53 日向ぼこ靴のかたちを褒める人
- 54 ベーグルの狭き空洞冬あたたか
- 55 火を奪ふ神話を聞きて膝毛布
- 56 煎餅を割って匂ひや寒稽古
- 57 花八つ手茎のいきなり緑なる
- 58 竹馬を開いて犬の通り道
- 59 小春日の借りたき本を司書が抱く
- 60 焚火から一番遠い人と消ゆ
- 61 寒椿屈伸の数声に出て
- 62 皮蚤に三つの緑雪曇
- 63 セキュリテイ統括室に冬林檎
- 64 杵南天涙の位置に雨がきて
- 65 再起動すると結合春キャベツ
- 66 ヨーグルト掬へば崖のうららけし
- 67 露の臺散乱夜行バスの床
- 68 黄水仙顔を叩いて学校へ
- 69 龍天に昇る蒸籠の隙間より
- 70 花馬酔木指ひんやりとしてきたる
- 71 洪水の夢見し朝の高苜はがす
- 72 ショー終へし海豹の手のおきどころ
- 73 蜆汁けふすべきことあとふたつ
- 74 座布団の近づく男雛女雛ほど
- 75 花の奥中華飯店灯りけり

- 76 芝桜埴輪の馬に短き尾
- 77 切るまへに揺るる豆腐や春の夕
- 78 初夏の花屋の前の男たち
- 79 垢擦りのベッド桃色修司の忌
- 80 葉裏みな爛れ蚊柱立ちにけり
- 81 我が影に葉の裏返る夏の川
- 82 青嵐ゲートボールの旗七つ
- 83 曇天やペろりと菖蒲垂れてをり
- 84 イーゼルの脚筍のちよつと右
- 85 青鷺と出雲へ向ふ特急と
- 86 花卉二つつないでゐたる蜘蛛の糸
- 87 跳躍の短き雀立葵
- 88 大西日うしろに運ばるるカレー
- 89 全員が九時寝五時起きジギタリス
- 90 サルビアや車が母に道譲り
- 91 ラジオ第二体操蓮池を囲み
- 92 青林檎服を掴みしまま眠る
- 93 両側に本を支ふる青林檎
- 94 山羊の尻左右に険し花梯梧
- 95 行々子朝の街灯濡れてをり
- 96 蟻地獄遊具の鶏の眼の虚ろ
- 97 吹き抜けの風は偽物百日紅
- 98 鼻押せば怒り出したる蚊遣豚
- 99 入浴剤かき混ぜし手の日焼かな
- 100 尾を振って肛門見ゆる西日かな